

河川氾濫の危険性が高まったら どこに避難する？

想定される洪水の状況に応じて、避難行動は異なります。
日ごろから複数の避難先を考え、状況に応じてより安全な避難を選択しましょう。

河川氾濫の危険性が高まる前に 浸水のおそれが高い地域へ避難

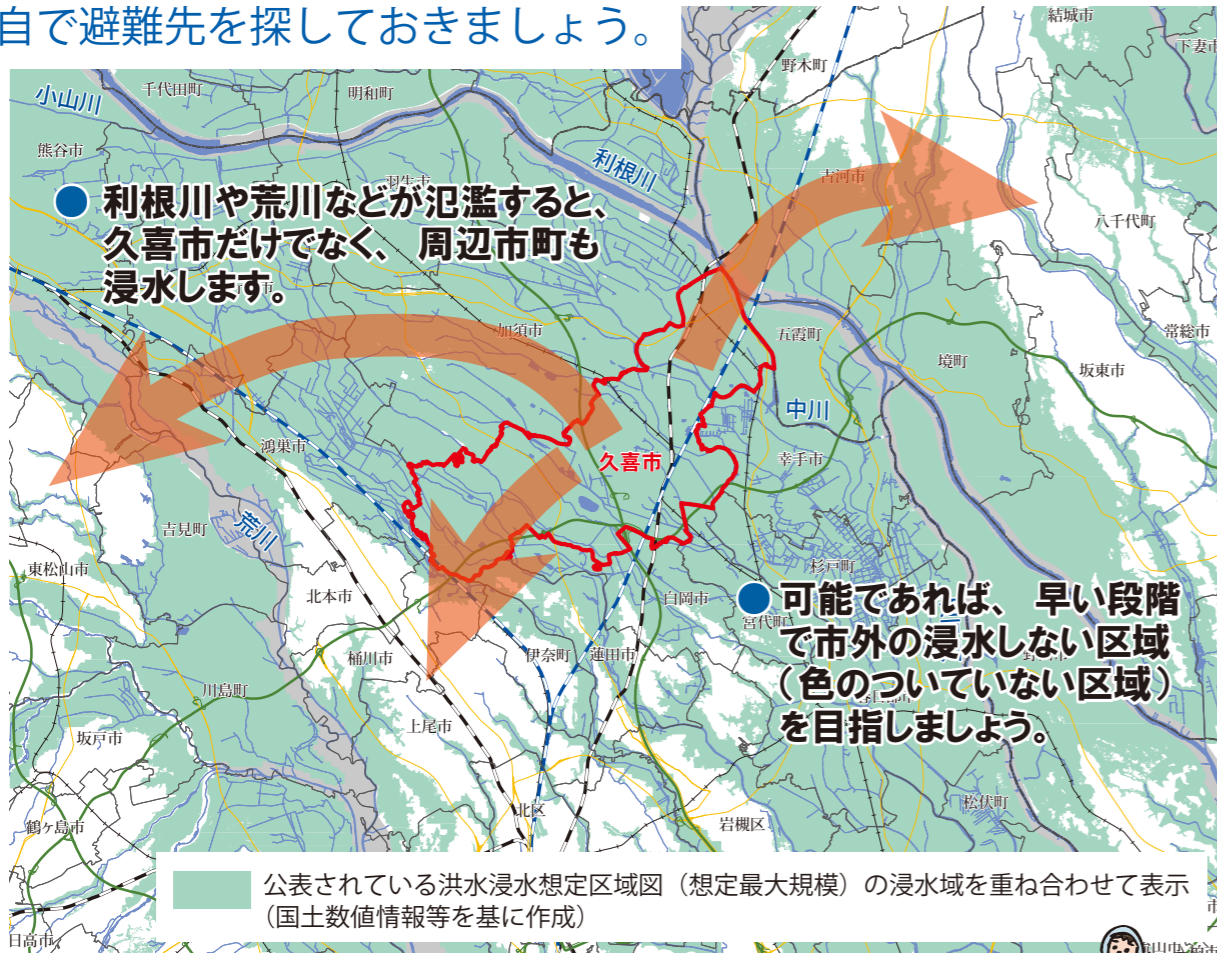
1 浸水のおそれが低い地域の 親戚・知人宅や宿泊施設・勤め先等へ避難 (広域避難・分散避難)

- 避難所で収容できる人数は限られます。感染症対策の観点からも、各自で浸水のおそれの低い地域の親戚・知人宅や、勤務先や民間の宿泊施設などを避難先として確保しましょう。

避難先は各自で確保



まずは、利根川や周辺の河川が氾濫したときでも浸水しない市外の場所に各自で避難先を探しておきましょう。



市外に安全な場所を確保するのが難しい場合は、河川ごとの浸水域を確認し、少しでも安全な場所を探しておきましょう。

河川ごとの浸水域は、7～12ページ

浸水域外に避難先が見つからない、 遠方への避難が間に合わないときは…

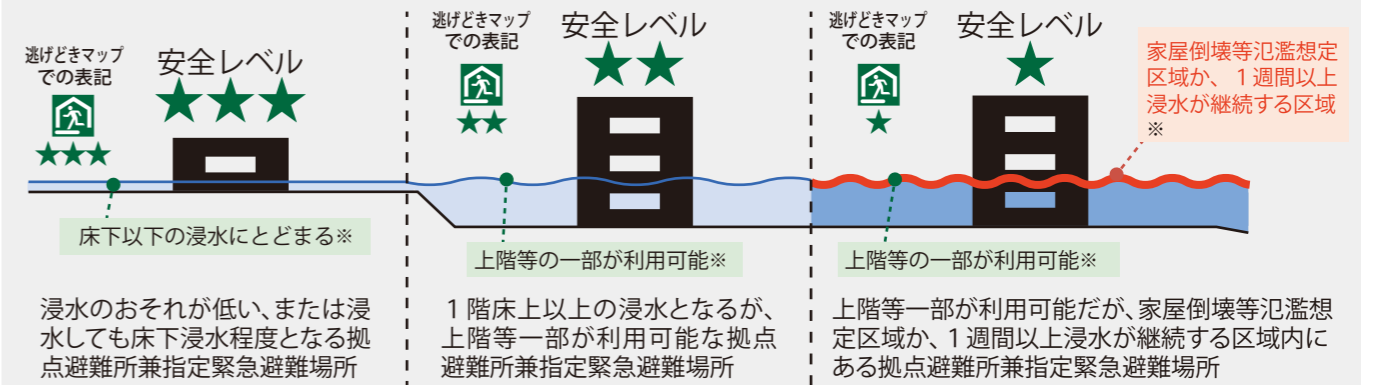
2 総合運動公園、菖蒲文化会館、学校施設など、 浸水のおそれが低い避難所へ避難

- 可能な限り、安全性の高い避難所を目指しましょう。
- 水害時に優先的に開設する拠点避難所兼指定緊急避難場所に安全レベルを設定しました。安全レベルはあくまで一つの目安です。ご自身の判断でより安全な避難をしてください。



洪水時の避難所の安全レベル(安全レベルと浸水の関係)

※利根川、荒川、江戸川、小山川の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)を参考に、建物の床面の高さを考慮して設定



- ! 避難所には多くの方が避難し、混雑が予想されます。
- ! 市内の学校の体育館は、河川氾濫時には浸水が想定されます。自主的に避難した場合には、校舎等への移動が必要です。

避難所・避難場所一覧は、41～42ページ

3 逃げ遅れてしまったら、命を守れる場所へ

- 大雨や強風、夜暗いときなどに避難することは危険を伴います。無理に避難せずに、少しでも安全な場所で身を守りましょう。

マンションの上層階等では
自宅にとどまる
(在宅避難)

水・食料等を備蓄



自宅の最上階まで浸水が到達する場合や、避難途中で浸水がはじまったら

近くの高く丈夫な建物に逃げ込む

各自で必需品を持参



- ! 氾濫する河川や想定される浸水の深さ、建物構造等によっては安全性が異なります。
- ! 深い浸水や長期間浸水、家屋倒壊のおそれがある地域にお住まいの方は、まずは自宅外への避難を考えましょう。

自宅や近くの高く丈夫な建物が命を守れる場所かどうかは、逃げどきマップで判定しましょう。
逃げどきマップは、19～34ページ

自宅にとどまるとしても、水道や電気、ガス、トイレなどが使えなくなるかもしれません。また、長期間孤立するおそれがあるため、飲料水や食料などの十分な準備と、水が引くまでのがまんが必要です。



推奨7日分
非常用備蓄品は、47ページ